

おへぴん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おへぴん第70号』 2016年秋

発行：(福)さざんか会本部/船橋市行田2-8-1 ☎047-404-1135

編集：おへぴん編集委員会(けいよう) 船橋市二和西5-10-1 ☎047-411-8177

おへぴん70号(敬称略)
P1-2 日常に潜む狂気
理事長 宮代隆治
P3-4 権利擁護はいま
相模原事件を考える
赤津保子・林恵美子
P5-9 「考」相模原事件
サービス管理者の声
■各事業所夏だより
P10 ゆたか福祉苑
P11 とらのこ さざんか
P12 カメリアハウス
けいよう
P13 のまのま のまる
P14-15 北総育成園
P16 笹川なすな工房
P17-18 ランプ発
P19-20
さざんか会後援会だより
相模原事件を考える
講演会のお知らせ
※相模原市津久井やまゆり
園で起きた事件について、
おへぴんでは「相模原事件」
といたしました。



日常に潜む狂気

さざんか会 理事長 宮代隆治

七月二十六日、真夏の深夜に惨劇は起こりました。神奈川県相模原市にある知的障害者施設「津久井やまゆり園」に元職員である男は、凶器を携えガラス窓を破って侵入、静かに寝入っていた障害者十九名もの尊い命を奪い、他に多くの人たちに重傷を負わせました。

これだけ多くの人たちが一度に命を落とすとは…。稀に見る凶悪犯罪でした。

襲われた人たちの恐怖は如何ばかりであったことか。突然命を奪われた人たちの無念は…。心が締め付けられ悲壮な思いが支配します。

第一報に接した時、正に信じられない思いでした。何で、元職員が？何で、利用者さんを殺傷？何で、何で、何で。その後、容疑者に関する情報が色々届いてきました。その中に、何より不可解だったのが衆議院議長あての書簡

でした。そこに書かれた内容は、全く信じられないものでした。曰く「障害者是不幸を作ることしかできません」。そして、重度障害者を殺害することが日本国のためとする犯行予告も送り付けていたとのこと。

これに対して、単なる憎悪等ではなく、卑劣なヘイトクライム(差別にもとづく犯罪)であることが多くの人から指摘されました。容疑者自身が「ヒトラーが



下りて来た」と明言したとか。ナチスドイツは、優生思想を根拠に、精神・身体障害者、てんかん患者らに不妊措置を強いたり、「T4」作戦と称した障害者安楽死計画を実行しました。その数約7万人とか。この計画は、その後も独り歩きして更に十三万人が殺害されたと言われています。この蛮行はホロコースト、ユダヤ人大虐殺へとつながって行きました。

民族、人間に優劣をつけ、存在価値のあるものとそうでないものを別け、そうでないものは抹消してしまう。究極の差別であり、そこから派生する人命軽視です。

今回の事件の真因を探るに、容疑者が抱いた優生思想、何故このような志向に支配されたのか、どのように行動と結びついていったのか、ここは外せぬ要点となりましょう。



「障害者は劣った人間」、「生きるに価値なき存在」、「社会の邪魔」、優生思想の背後にはこのような言辭が用意されているようです。

気になる状況は、度々見聞して来ました。川崎市で、精神障害者グループホームの開設に伴い、反対運動が起きました。まるで、この地区には精神障害者は住む権利、価値はないとも言わんばかり。加えて、運営する事業所に対してこんな声まで。「この事業所には毎年、何億円も市から支給されているそうです。私、税金を払うのが嫌になりました」と。

もっと身近に、もっと日常的に見聞するものがあります。「社会に役に立つ人に」。昔、とても熱心に施設ボランティアして下さる方がいて、本当にありがたいことでした。ある時会話の中で「私、息子を社会に役立つ人になる様にと育てました。でも、ここに居る人たちは」と済まなそうに仰ります。「社会に役立つ」ことは大切な事であり、何らおかしなことではありません。その方のご意見は決して否定されるものではないでしょう。ただ、「社会の役に立つ」物差しで測られたとき、障がいのある人の姿はどう見えるのでしょうか。

私たちはこのような物差しを、超えた価値観を持ちたいと思えます。役にたつか否かではなく、人としての存在自体に平等な価値を見出すこと。その為、為すべきことは。



厚労省に、再発防止検討チームが設けられ、議論が始まりました。容疑者の措置入院をめぐるそのあり方が議論されています。ただ、この行く付くところが精神障害の方への偏見を助長し、更なる拘束や隔離を促すことにならぬ様、懸念されます。

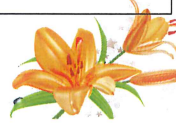
また、施設にカメラ設置等セキュリティ策を強化することも求められます。必要ではありましようがそのことが周囲に異質の印象を与えては、地域からの距離を遠ざけてしまいます。一度とこのような惨劇が起きぬよう、表層に囚われず真因を探らねばなりません。



相模原事件 (津久井やまゆり園事件) ～第一報にどう思ったか～

報道されない“背景”

- * 施設に働く職員間のコミュニケーションは取れていたのか。容疑者の「異常な? 考え」に気づけなかったのか。
- * 戦争中、象がいなくなった頃、近所にいた障害者が消えた。海外でも、戦時、障害者は邪魔者扱い? された。ドイツアウシュビッツは有名。
- * 植松容疑者は、特異な人物。彼自身の生い立ちなど背景を明らかにして欲しい。
- * かつて石原慎太郎元都知事が、東京都府中療育センターを訪れたとき、「ああいう人ってのは人格あるのかね」と言い、麻生財務相兼副総理は、高齢者に関する発言の中に「いつまで生きているつもりだよ」と。国家のトップが差別発言。



去る7月26日未明に植松容疑者によって19名の方が残酷にも殺害されるという想像を絶する事件が起きました。
また27名の方が大怪我をされましたが、心にも大きな傷を負っていました。
関係者の皆様には、まだまだご心痛は癒えないことと思います。

船橋の障害者と家族の中にも、容疑者の身勝手な動機、行動に怒りと悲しみを覚える方が多いのではないのでしょうか。
委員会の Forus (権利擁護委員会)、9月のテーマとして取り上げました。参加された皆さんはショックを隠し切れず、重苦しさで言葉が詰まる場面もありました。



被害者の名前が明かされないことと 基本的人権

- * 被害者の名前を公表しないのは、存在が無視されているようで納得できない。怒りを覚える。
- * 基本的人権は、障害者にもあるはず。親自身はそれを認識し社会に訴えていくべき。
- * 名前を出したくないと考える親族や関係者に、「私は存在している(いた)」という本人の声が聞こえているのだろうか。

横浜市の障害当事者のことば (朝日新聞より抜粋)

* 小学校の頃、友達は「死ね」「障害者は要らない」と離れていきました。とてもショックでした。20 数年忘れていたその言葉を容疑者が話していると知り心が壊れました。誰でも年をとると体が不自由になるかもしれません。そんなとき「あなたは要らない」と言われたらどう思いますか。今、仲間と法律の勉強をしたり、楽しんだり、不自由な人を励ましています。街に出て障害のない人と出会う機会があればお互いを大事にできるようになります。今は、親身に支えてくれる人も沢山います。

再発防止 (一度でもあっては ならない事件)

- * 衆議院議長に手紙が届いた時点で、警戒できたはず。
- * 容疑者を英雄視して、模倣犯が出ないことを願う。
- * 高い塀や防犯カメラなどではなく、コミュニケーションで共生社会への理解を深める。
- * 施設側も人手不足だった頃、誰かれかまわす採用した。しかしそのあとの経験や研鑽が重要な鍵。
- * (福祉従事者の) 仕事は辛い割に給料が安いのではないか。それで不満を持つこともある。もっと上がるように国に訴えたいね! 仕事にプライドが持てるように。

愛

親の気持ち

- * 障害者を否定する所業は絶対に許せない。
- * 障害者を子どもに持ったことに後ろめたさを持った。
- * どう生きていけばよいかと戸惑った。子どもと自分の生活が考えられなくなった。
- * 将来にわたって本人が幸せに暮らせるように、堂々と生きていきたい。
- * 容疑者が、信頼すべき元支援員だったとは思じられない。接するうちに情がわくものと思っていた。
- * 思い上がりの強い容疑者。翻って自分はどうか？と自問している。

- * 護送される容疑者の笑顔には吐き気を覚えた。
- * 障害者は金がかかるから「要らない」と容疑者は言った。その容疑者がその日から拘置所、裁判、刑務所などで沢山の国税を使う？それをどう思うのか植松容疑者に聞いてみたい。
- * 優性思想は危ない。妊婦さんは着床前診断で悩んでいる。
- * 往々にして、人は資産の多寡や給料の差、地位、知名度で価値を判断してしまいがち。そこから差別や偏見は生まれる。容疑者はそんな被害者なのかもしれない。

衝撃

差別！から共生社会へ

- * 子どもが大声をだしたら見知らぬ人に「うるさい！静かにしろ！」と言われた。共生社会はまだまだ？
- * 街を歩いていて時折視線を感じることもあるが、差別とまでは言えない。障害者への認識が深まってきていると感じる。
- * ネットなどで差別発言を呟く人は多いと聞く。容疑者も沢山発信し、同調する人もいたらしい。
- * 色々な考えの人がいることがわかって、ちょっと怖い。
- * 動機を「障害者がこの世からいなくなればいい」と言う犯人に、事件の後も共感する声が少なからずあったのは残念。重度の障害を持った人は税金（年金）がなければ生きてゆけない。それは決して無駄づかいなんかではなく、“命”がそれだけ尊いものと考え直して欲しい。
- * うちの近所の子もたちが、植松容疑者を英雄視する発言をしていた。
- * 今、健常者であってもいつ何が起きるかわからない。思いやりの心が大事。
- * 北総育成園は近隣の住民と連携がとれていて、障害者が認知されている。
- * オーストラリア人のホームステイを受け入れたが、その彼女が「なぜ私は日本の税金を払うのか？」と聞いたので、「息子のような障害のある人のために使う」と答えるとおおいに納得してくれた。
- * 幼児の頃は差別などない。学校教育で障害のある人もない人も、違う国の人とも一緒に学び、色々な人と接することで、“みんな違ってみんないい”と学ぶはず…。

ある街の医師のことば



「相模原事件」や高齢者が病院で亡くなった「異物混入事件」も、ともに弱い立場の人が被害者になるという事態は、今の日本の「文化度が低い！」と内外から批判される。「思いやり、支え合い」が当たり前になれば習熟した社会と言えよう。

Forus (権利擁護委員会)について

「Forus」は船橋市手をつなぐ育成会（会長 好村肇）の会活動の一つとして設置されました。

参加したみんなが自由に意見を言える貴重な場です。どなたでも参加できます。奮ってご参加ください。毎月第1月曜日又は第2月曜日に社会福祉法人さざんか会「けいよう会議室」をお借りして開催しています。詳しくは育成会事務局にお問い合わせください。

「047-449-7233」（毎水曜日 10：30～3：00）

5日のテーマ

9月5日（月曜日）午前中の短時間にもかかわらず、沢山の“思い”を聞くことができました。読んでくださった皆様はどのような感想をお持ちになられたでしょうか。

考 相模原事件から

7月26日起きた悲惨な事件は、私達障害福祉サービスを提供する者にとって決して忘れることのできないことです。

そこで、船橋市内さざんか会事業所のサービス管理責任者を中心に思いをつづつてみました。

■ □ ■ □ ■ □

けいよう

寺門 麻美

命って授かりものですよね。望んでも簡単に手に入れられるものではないのです。現在の医療技術を以つても母体にかかる負担などを考へると、昔も今も変わらず出産のリスクは高いこと、皆忘れてしまっているのでしょうか。

今回の事件に関して、多くの事が取り上げられ、論点も様々ですよね。あらゆる点に於いて、痛々しいことは、皆さんも感じていることと思

ます。その中でも特に考えさせられているのは、優生思想的な考え方でしょうか。根深いですよね。羊水検査の時にも話題になりましたが、その子しか授からないかもしれないに悩むのでしょね。望まないものは排除するという過激な思想の人は、極少数としたいですが、結婚相手に求める条件など、比較的緩いと思われるものも、行き着くところはそこなのでしょうか。

この仕事をしていく上で、そしてこの事件を目にし、今スタッフが大切にすべきと思う事は、やはり、対話でしょうか。相手がどのように考え、どう思っているのか、利用者さんの思い、親御さんの思い、スタッフの思い、そのすべてに耳を傾けなくては、今回の事のように傲慢で独り善がりなものになってしまふと思うのです。この仕事を始めて日の浅いスタッフには特に、多くの人の思いを聴いてもらいたいですね。

母親って必死ですよ。自分を守らなければいけないし、子どもの事も守らなければいけないし、様々なことに立ち向かえるように強くあろうと。母親に限らず、皆さんも同じような思いですよ。その思いを誰が分かってくれるのか、探しているのです。その相手がスタッフであつたら良いなと思えます。スタッフも親であつたり、子であつたりする訳ですから。

思想も言動も自由だとは思いますが。でも、私達は知っているはずですよ。命は授かりもので、生まれてきた命は素晴らしい奇跡だという事を。その命は大切にされたいのです。誰かに認めてもらいたいのです。難しいことを論じる前に、大切にすれば良いと思えます、今近くにいる人を。この仕事に携わる人々が、そういうことを言葉にしていく必要性を強く感じています。利用者さんの事が大切です、スタッフ一人一人が大切です、と。そういうのは、いかがでしょうか。



ゆたか福祉苑

大江 剛生

7月26日の朝ニュースを見ようとテレビを付けると大変な事になっていました。とりあえず仕事に行く準備を済ませ車で職場へ。普段は車内でテレビを付ける事はないのですが、この日車が立ち止まる度にテレビ画面に釘付けになっている自分が居ました。朝の打ち合わせで施設長からもこの前代末聞の事件についてお話がありました。ご利用者様やご家族から事件について話をされた際、何と言葉をかえせば良いのかとずっと頭の中で考えていました。事件後も連日報道が続いており、今回の事件がどれだけ社会に衝撃を与えたかは測り知れません。

神奈川県では再発防止の為、再生本部を設置し、園の再生に向けて全力で取り組んでいます。園としての機能の回復、入居されている方達の生活、

職員の心のケアなど様々な課題が残っています。防犯機能の強化や職員体制を改善するだけでは何も解決はしません。また、私達自身もこの事件について職員一人ひとりが身近な問題として捉える事が大切だと感じています。

ゆたか福祉苑のご利用者様やその家族の中には報道に対して不安をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。私達職員が今やらなければならない事は、ご利用者様に安心して苑を利用して頂き、「ご家族には安心してご利用者苑に送り出して頂く事だと思っています。その為には、ご利用者様お一人おひとりとの信頼関係がとても重要です。」ご利用者様と職員が互いの意志を尊重し合い、辛い時には互いに支え合い、嬉しい時には一緒に笑い合えるような関係ではないでしょうか。

私達の仕事は、「ご利用者様との信頼関係があってこそ」です。今年4月『障害者差別解消法』が施行されました。内容については、不当な差別的取扱い」と「合理的配慮の不提供」が禁止という

ものです。しかし、法律が出来たからといってすぐには障害を持つたれている方達が暮らしやすい生活になるわけではありません。私が差別解消法について色々調べていると質問の「コーナー」があり、その中に「すべてに国民の意識は変わるのでしょうか？」という内容がありました。質問に対する答えが「法が施行されるまでに周知する事が大切です。すぐには意識を変える事は難しい為、今後の働きかけが重要になっていきます。当事者同士が建設的に話し合えるような環境を整える必要があります」という内容でした。障害者を持たれている方達が幸せと思える社会への実現までの道のりは長いと思います。私は何かしらのお手伝いをしたいと思っています。最後にになりますが、私はこの仕事に誇りを持っています。私の周りで働いている方達も同じ志を持っている方は居るはずですよ。この気持ちはずっと変わる事はないと思っています。亡くなられた方達へのご冥福をお祈り申しあげます。

カメラアハウス

藤敷 正英

おーぷんに寄稿させていただくのは久しぶりになります。昨年7月よりカメラアハウス管理者を務めさせていただいております藤敷と申します。初めましての方も多いかと思

いますので自己紹介をさせていただきます。福祉系の学校を卒業して何かに導かれるように障がい者福祉に携わるようになって今年で20年目になります。我ながらびっくりです。皆さんか会生粋ではないのですが、皆さんか会にお世話になってからは15年の歳月が経ちました。のまるに非常勤で働きはじめ、その後ゆたか福祉苑へ異動しカメラアハウスに移り現在に至っています。

たくさんご利用者さんとご家族にお会いしてきましたがご記憶にありませんでしょうか？そうです、あのガラの悪い男、それが藤敷です。気持ちばかりで走り続けてきて今この場所に立っています。

さて、本題です。触れるのは非常に難しい話なのですが目を背けるわけにはいかず、依頼をいただいたのでつたない文章を記させていただきます。概要に関しては皆さまご存知でしょうから触れませんがあまりにも凄惨で「ミミ」も理解がいかない犯罪です。亡くなられた19名の方々にも心よりご冥福をお祈り申しあげます。

また、負傷した方々が一日も早く日常生活を取り戻されることをお祈りいたします。戦後最悪の凶悪事件、そのメディアでは大々的に伝えられましたが、まさしくその通りです。ただ関係者としては一元的に受け止めることができません。東京新聞から引用します。『肉体的生命を奪う「生物学的殺人」と同時に、人間の尊厳や生存の意味そのものを、優生思想によって抹殺する「実在的殺人」という「殺人の二重性」がある。』事件の概要を知ったときに胸の中でもややもやとしていたもの、なかなか上手に言語化できなかった文章です。

たわごとでしかない殺人鬼の一言にどれだけ多くの人々が傷つき虚無感に襲われたことでしょうか、胸に突き立てられたその言葉は癒えることな

く心を脅かし続けているでしょう。当事者の皆さんに対して何ができるのか、迷い考えを日々です。

そしてもうひとつ、私事にもなりますが20年間何回転んだって愚直に走り続けてきた思いを踏みにじられた憤りが深くあります。

日々の支援の中、傷を負うこともありましたし涙を流すこともありました。だけどこんな奴が一人いることで何か新しい景色を見てもらえるんじゃないか、一歩だけ二歩だけ、少しでも多くの経験をしてほしい、そんな思いで積み上げてきたものが蹴り崩された思いです。そうかといって、もちろんこれからも歩みを止めるはずはありませんが。

話は少しずれますが夜間勤務のある職員のみなさまはやはり何とも表現のできない恐怖感を抱きながら勤務をされているかと思いません。実質的に何も力にはなれないのですが、あなたがたがいてことで平穏な毎日が送ることができている利用者さんたちがいます。誇りに思います。まあ僕ごときに誇られても何のメリットもないんで

すが、のまる勤務経験者としてエールを送らせてください。

最後にお得意の好きな歌からの引用です。「君がただいるだけで生きがいになる人がいること」「人が存在するに充分すぎる理由だと思えます。

魔法のランブ相談

高嶋 伸吾

発生から2カ月が経つものの未だ続報が伝えられている津久井やまゆり園の事件ですが、現場となつてしまった建物はどうやら改修ではなく全面建て替えということになったようです。

私は10年近く入所施設で仕事をさせていただきました。今回の件を受けてまず考えたのは職員として自分の身に降りかかった場合の事でした。

地域に対して常に開かれているべき福祉施設において唐突に外から侵入してくる人間に対しては驚くほど無警戒であるのは生活型の施設での勤務経験がある人ならば誰もが実感できることだと思えます。加えて夜間の限られた体制の中ではどんな事態を想定しても今回の事件に対応する事は不可能だったのではという気さえします。

その対応策としてセキュリティの強化や非常時の訓練または職員の待遇などが取り沙汰されています。「普通の暮らしを求める場に求められる普通じゃない警備体制」がその場で生活している方々にとって本場にプラスに働くのか、とはいえ命を守るには必要な事なのか、未だ私の中では答えができません。

しかし実際日頃から福祉サービスを利用している方々は私達以上に差し迫った危機感を感じてらっしゃるのではないのでしょうか。

7月26日当日、各メディアは未明に起きた事件の詳細を朝から繰り返し報道していました。現在私は相談支援専門員として法人内外の福祉サービ

と関わらせてもらっていますが、私の携帯電話にもそのご利用者さん何名かから連絡がありました。「どうしてこんな事が起こってしまったのか」「自分が生活している施設は大丈夫なのか」等々みなさん様に不安を口にしていました。

今回の事件に対する衝撃はもちろんのこと、加害者の動機として繰り返される障害を持つ方の存在を否定するかのような発言の数々に自分自身の存在意義すら否定されたかのような気分になってしまったことを切々とお話された方もいました。そんな彼になんと言って安心してもらうべきか自分自身の言葉の軽さに愕然とするしかありませんでした。

当日から翌27日にかけて各福祉団体から当事者ご本人やご家族に向けて声明文が発表されました。特に育成会からのご本人に向けられた声明文は各メディアでも大々的に取り上げられ前述の彼からも「テレビでやっているのを見た！なんかちょっと安心した気がする！」と再度連絡がありました。

私も安心したと同時に若干の無力感を感じつつ今まで関わってきた方々に対する自らの姿勢を見つめ直す機会にもなりました。

声明文はご本人に向けて「堂々と生きてください」と結ばれていました。こんな当たり前すぎてあえて伝えることもしなかった言葉も、もしかしたら自分は今まで関わってきた方々に伝えることを怠っていたのではないか、不安になった時自分の存在が揺らいでしましそうな時、一言で安心できる言葉は吐けないかもしれないけれど傍にいてこんな当たり前のことをしっかりと伝えられる自分でありたいと強く感じました。

つづ

安孫子 登

はじめに7月26日、障害者支援施設「津久井やまゆり園」において事件にあい、命を奪われた19人の方にご冥福をお祈りすることにも、ご家族の皆様にはお悔み申し上げます。また、今回怪我をされた20名の方、現在も治療をされている方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

事件のことは当日の朝、起床後すぐ「私の職場と同じような施設で大変なことが起きている。」と家族に言われ、テレビで知りました。亡くなられた方が多数おられること、障害のある方が生活をされている施設、まさに自分の職場と同じ障害者支援施設で起きた事件であり、犯人は施設の前職員であることも報道されました。数分はテレビの前から動くことが出来ずに、繰り返しテレビから流れてくる現状で収集されている限りの情報と施設外観や上空からの映像をただ見て聞いていました。しかし、とてもこれらの信じがたい情報を一度に受け入れることが出来ずにおりました。

我に返るとすぐに想いはのまるへと向かいました。のまるでこのような事件が起きることが考えられるだろうか?「これまで一度も考えたこともなかったし、起きるはずがない。」と自分への問いにこたえます。障害のある方の生活を守るべき立場の職員がこのようなことが出来るわけがないと。

のまるに着くと利用者さんは皆さんいつも通りの朝を過ごされていて、利用者さんと接している職員もいつもと変わらないやりとりをしていて、少しほっとしました。しかし、全体の空気はどこか重く、ひんやりしたものを私自身は感じました。

事件当日、施設長の呼びかけで夕方に職員間での意見交換が行われました。新任職員から経験豊富な職員まで顔ぶれはさまざまでした。突然に多くの方の命が奪われたことについて悲しい思いは全員一緒です。加えて、今後の施設の在り方について不安を抱えている意見が多くありました。利用者さんに安全に過ごしていただくにはどうしたらよいのか。万が一、今回のように外部からの侵入者があった際、職員はどのように対応していくべきか。セキュリティの強化や職員間での不測の事態に対する初期動作の確認の必要性等、それぞれからの意見があげられています。のまるでは早速、屋外の照明が明るくなりました。とても照度が上がり、防犯面での効果が期待できます。今後は居住棟の外に防犯カメラを設置する対策も予定されており、

つづ

奥山 裕美

恐ろしい、そして信じられない事件が起こりました。その日、帰宅後家事を終わらせてニュース番組を見ました。冒頭から25分位ずっとそのニュースでした。次から次へと報道の声と画面に釘付けになりながら、気が付くと涙が出ていました。そして、明日どんな顔で皆さんかキッズのお子さん達と保護者の皆さんと会えばいいのか：私はどんな気持ちで明日からのこの福祉の仕事をしていけばいいのか：そして保護者の皆さんはどんなお気持ちでこの事件を見聞きするのか：いろいろな事が頭の中を巡っていました。そして、事件のニュースの中で加害者の発する「障害者はいなくなればいい」という言葉が何度も報道されることに怒りを感じました。この世の中に必要のない命は一つもありません。

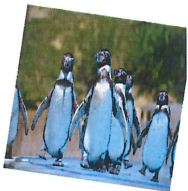
どの人にも生きていく意味があり、自分の人生を自分らしく生きていかなくはならないのです。

その加害者の言葉を何度も報道することでどんなにたくさんの方が傷つくのかを考えて報道しているのか、テレビ局への怒りもこみ上げてきました。この事件はいろいろな意味で深い傷を残す事件です。

私は短大を卒業後福祉施設に就職し、数年の専業主婦時代を除けばずっとお子さんと関わる仕事をしてきました。保育所に5年、それ以外は障害を持つお子さんともう20年以上一緒に過ごさせて頂いています。一番初めに会った入所施設の5歳の女の子は今北総育成園で元気に生活をしています。もう40歳になるかしら？昨年の北総育成園での式典では他の利用者さん達とダンスを披露してくれました。今まで出会ったどの方も様々な問題を抱えていても真っ直ぐな瞳と柔らかい素敵な笑顔の方々です。いつもたくさん笑ってたくさん触れ合って、それが私の笑顔と元気の素です。



今、皆さんかキッズでたくさんのお子さん達と保護者の皆さんと関わらせて頂いています。家庭状況やお子さんの障害は様々でも、皆さんかキッズに信頼を持ち通って来てくれていると思っっています。私はこの信頼関係を築くために毎日一人ひとりのお子さんの事を大切に思い、保護者の方々のお力になればと思っ関わらせて頂いています。生まれてきた子どもは皆『幸せ』に生きていってほしいです。生きていかななくてはなりません。障害があることで今の社会の中で生きづらくなっていることが問題なのだと思います。だとしたら、今この幼児期に少しでも出来ることが増え、待つことや順番がわかり、その人なりのコミュニケーションの手段を持つことで社会の中での生きづらさが軽減できると信じて毎日の療育をしていくのが私の努めです。



しかし、それより目の前にいるそのお子さんがありのままに、その愛がままの姿で生きていることが愛おしいんです。生まれてきた命は障害のあるなしや、その生活環境に関係なく、どの命も大切にされるべき命なのです。他人からとやかく言われることなく、この子たちは誰一人例外なく大切にされるべき命であることを胸に、今日もお子さん達と保護者の皆さんと関わっていきたいと思います。



事件を風化させない

のまる 泉一成

亡くなった利用者さんの氏名が発表されない、同じ場所に施設再建を希望する、さてなぜだろう。

多くの悲しみとやるせない思いのサービスマネージャー、皆様がかがでしたでしょうか。編集委員会でも職員の方々の想いをお聞きし、これからも利用者さんとしっかり向き合っていく決意のようなものを感じ、胸が熱くなりました。職員の懸命な姿を見ては、「ありがとう」の感謝の念でいっぱいです。

相模原事件を風化させることなく、障害があるなしに関わらずそのひとらしく地域で暮らし続けることをサポートしていかなくてはなりません。その人にとっての地域がどこになるのか、決めるのは本人です。ひとり一人に氏名があるようにオーダーメイドの暮らしがあってもいいじゃないですか。利用者さんの想いに寄り添うという皆さんの理念をみんなで実現していくことを考えたいです。



ゆたか福祉苑

7月1日に25回目の開苑記念日を迎えたゆたか福祉苑は、昨年度より建物改修工事の準備を進めて参りました。工事に先立ち7月上旬には、苑庭に仮設の建物が完成されました。新館、本館と工事が進められて行く為、新館1階のすずらん班と2階のあじさい班が本館、苑庭の建物へそれぞれ引越しを行いました。ロッカーから机、細々した備品など、こんなにも荷物が山積していたのかと驚く量でしたが、職員協力の元、2日間で終わることが出来ました。

あじさい班が引越しをした建物は、本館からスロープで繋がっており、新館2階までの階段とは違い一部のご利用者様にとっては安心・安全に移動が出来るかと好評です。また、建物の内部は、新館2階と広さは変わらないとの事ですが広く感じられました。ロッカーや備品の配置を念入りに調整し、ご利用者様が生活に支障のない範囲まで整え、ご利用者様をお迎えしました。急な変更や流れが変わるのを苦手とするご利用者様もあり、「不安な様子が見られた際にはどうするか?」「どのようにお伝えをしようか?」「等、不安で一杯でした。」ご利用者様を迎える朝も緊張はしましたが、職員其々が登苑直後からご利用者様お一人おひとりの流れに寄り添いながらお伝えをしました。そうした事もあり、混乱なく、普段と変わらな

い流れで準備、日中を過ごされました。部屋にある物の場所と一緒に確認をし、不安と思われることを一つひとつ払拭することで、生活にも慣れていかれたようでした。

一つ不便な点を挙げるのであれば、洗面所が遠くなってしまった事でした。必要な時にも本館まで行かなければならず、今までお一人で行かれていた方々に対しても職員が付き添いをしなければならず、窮屈に感じられている部分があったかも知れません。しかし、8月に本館の玄関傍に想像以上に大きな仮設の洗面所が設置されました。ドアのヘリ等、足元に多少の不安はありますがキレイで広さがあり、使用を重ねると便利なものと感じられるようになりました。

「住めば都」という言葉の通り、初めは不安を抱いていた苑庭の建物での生活ですが、階段が無くスロープであること、室内が広々としていて過ごしやすいこと、洗面所が使いやすいこと等快適な場所となっております。

記 あじさい班 鈴木



↑ 仮設の建物 ↑

職員紹介

9月から向日葵班に新しい職員さんがきました。



名前

宮川 研介(みやがわ けんすけ)

出身地

千葉県

休日の過ごし方

家族で買い物します。

意気込み等ひとこと

初めての事だらけですがご利用者様に喜んで頂けるよう頑張ります。

記 橋本

夏の思い出

厳しい暑さも少しずつ和らいできましたね。秋号では、この夏の楽しかった思い出をご紹介します!!
 ほぼ毎日と言っているほど、プール遊びや水遊び・ボディーペイント等の活動を行い、子ども達のキラキラしたかわいい笑顔がたくさん見ることが出来ました♡

そして、七月二十三日(土)には、みんなが楽しみにしていた、夏祭りがありました☆今年のテーマは「とらのこ忍者広場にみんな集まれ!」でした。お祭りのオープニングやエンディング、各コーナーのいたるところに忍者が登場し、大盛り上がりの一日でした。

また今年度は、玄関前にかき氷のコーナーを設け、オレンジ味、いちご味、メロン味、カルピス味と様々な味のかき氷を食べることが出来ました。なかにはいろいろな味を混ぜて食べているお子さんも…☆
 「つめたい!!でも、おいしい♡」と口いっぱいかき氷を頬張って、家族みんなでわいわい食べている姿がとても印象的でした!

冷たくて
美味しかったで
ござる!!



とらのこ忍者隊☆
大活躍でござる♪



さざんかキッズ

二年目の夏を迎えたさざんかキッズ、たくさん笑顔とともに過ごした思い出を振り返っていききたいと思います。

天候に恵まれる日が多く、プールに水遊び三昧!二階のテラスの大きなプールにたくさん水を入れ、保育者に抱えられてゆらゆらドボーン!潜ってお魚のように泳ぐ姿も見られました。そして園庭は泥んこや水遊びを思いっきり楽しむ子ども達の大きな笑い声でいっぱいです。

他にもわんぱくルームで体を動かしたり、夏の製作に意欲的に取り組んで部屋を飾ったりと盛りだくさんの毎日でした。

八月六日には夏祭りが開催されました。



今年はオープニングでみんなでアンパンマン音頭を踊ってのスタート。この日のために頑張ってお練習しました。うちわの製作、出店ではアイスクリームとお面をお買い物。ボールの部屋やまっくらの部屋等、お気に入りのコーナーで何度も繰り返し遊んだりして、子ども達は保護者の方と一緒に素敵な夏の一日を過ごしました。去年は慣れない雰囲気であっつらと落ちつかなかったけれど成長を感じられた、と嬉しい感想も頂いています。

保護者の皆様、お手伝い頂いた事業所の方々、ご協力どうもありがとうございました。

あつという間に夏が過ぎて秋の訪れ。後半戦も元気に楽しく盛り上がりたいたいと思いますー!



カメラリアハウス

なっだま
夏便り

カメラリアハウスの夏の行事と言えば、毎年恒例の一泊旅行です。今年の旅行先は「栃木県」！天候は良かったとは言えなかったですが、皆さん宇都宮動物園や大谷資料館など楽しまれたようです。何はともあれ、無事に行ってきたことが出来て良かったです！



9月恒例バーベキュー

2回目となる9月開所日恒例、BBQ！！4グループ合同で行うのでとてもにぎやかで盛り上がりました。



けいよひ

秋祭り

九月十日(土)にけいよひの一大イベントの秋祭りを行いました。天気心配されましたが、当日は見事な晴れ模様！暑い中でしたがたくさんの方にきていただきました。

模擬店では定番の焼きそばからスタップ手作りスイーツまで盛り沢山☆ステージでは、大久保学園サクシードによる生演奏や榎の会のペンシルバルーン、フラダンス、スタップ出し物など大盛り上がりでした。ゲームコーナーや展示体験も大盛況！ご来場いただいた皆様、ご協力してくださった皆様、ありがとうございました。

ここで、はじめて秋祭りに参加したスタッフに感想を聞いてみました！

◎曾我さん…初めての秋

祭りで分からない事だらけでしたが大きな混乱もなく無事終えることが出来ました。来年はより楽しいと思えるようなお祭りになりたいと思います。

* * *

秋祭りが終わってからは随分涼しくなり、散歩するには丁度いい季節になってきました。外に出ていろんな秋を見つけてみてくださいね♪



のまのまホームズ[マリン]と[にこにこ]が引っ越します。

のまのまホームズ中川公二

10月1日「[マリン]と「[にこにこ]」がそれぞれ引っ越し、ひとつのグループホームになります。場所は行田となります。名称は「[にこにこ]」となり、定員は5名です。

9月22日(木)に、皆さんで現地を見学に行きました。

これから新しい生活場所となり、楽しみがいっぱいです。しかし生活環境が変わるので、ドキドキすることもあるかと思いますが、慌てず構えていきたいと思えます。

ちなみに建物の1階は男性の方のグループホーム「ゆーもあ」となります。



写真は9月15日に撮影したものです。見えませんがなんとエレベーターが設置されています。

のまる

夏だ！海だ！テールだ！

平成28年8月16日にテール外出で『ふなばし三番瀬海浜公園』に行ってきました。

当日は、台風上陸前であいにくの曇り空でしたが、予定通り出発する事ができました。移動中の車内では皆さん、楽しみにされていた様子で笑顔がみえていました。

現地に到着すると水着に着替え早速海へ向かい、砂浜で寝転ぶ方や海辺を自由に歩く方等、夏の海を満喫し、とても気持ちよさそうにっていました。



海水浴を楽しまれた後は、皆さんお待ちかねのバーベキューです。

昼食中、風が強くなっていき、パラソルが飛ばされてしまうハプニングがありました。お肉や野菜、フランクフルト等もお腹いっぱいになるまで、召し上がり大満足になって頂けたと思います。

帰りがけに若干、雨に降られました。が、無事にテール外出を終える事ができました。



北総育成園 夏期職員研修

「長崎コスモス会訪問（姉妹施設）」

長崎平和公園へ千羽鶴届け（平和学習）」

支援員 安藤悠果



今回、北総育成園の姉妹施設（平成4年姉妹提携）コスモス会訪問・平和公園への千羽鶴届け・近藤原理先生訪問と実に充実した研修の機会を頂きました。

コスモス会の二日間の見学ではまだまだ見たりないほど、たくさんの事業の規模も大きく驚くばかりでした。そして一つ一つに真剣に取り組んでおり、お話を伺った職員さんの表情が生き生きしていることを感じました。それも利峰（理事長）先生の思いをきちんと汲んで受け継がれているからだと思います。今という時代の世の中の流れを見てそこで自分たちに何が出来るのかという点も考えて実践して成功している。これは、誰にでも出来ることではないし、考え方、見据え方、ぶれない芯、さらにこの人についていこうという魅力と、職員を引

張っていくリーダーシップなどたくさんの要素が人を引き付けているのだと思います。

また、福祉事業で地域貢献をするところ。それが地域の人たちに理解されるきっかけになると感じました。地域の人



長崎県南島原市コスモス会本部で、皆さんが出迎えてくれました

ちが何を求めているのか、自分たちのファンを増やすにはという考えに基づいての実践です。北総では、須賀山城址の整備や根方区のお祭り参加など地域の方に役立てていると思えますし、須賀山城址祭りやライオンスク

ラブ招待クリスマス会、外出や旅行などは、地域の方と触れ合える機会でもあると思います。私自身これからも北総の地域貢献の取り組みにも大切に行きたいと感じました。今回、コスモス会研修に行けたことで気づけたことであり、利峰先生の「研修に来るのは、自分たちの事業を学ぶため」という言葉を、今研修報告を作成しながら実感しています。

また、利峰先生は、武井園長のことを真の仲間とおっしゃり、手厚い歓迎と、丁寧な案内を頂きました。コスモス会へ研修に行けたことは、私自身視野が広がり、今後の進み方にも影響を与える出来事になると思います。実際の支援技術を学ぶことも必要だと思いますが、こうして他施設の見学をして利用者をもどのように大切にしているのかを見て、人と人とが繋がっていることも、改めて考えさせられた研修でした。参加した先輩職員とも今後の

支援について話し合い、北総の職員同士の繋がりを強く感じました。

翌日は、長年障害を持つ方との共同生活（今のグループホームの先達）を実践してこられた近藤原理先生のお宅にお邪魔しました。今年1月3月と園長以下北総の男性職員が、原理先生の裏山に椎茸の菌打ちをされたことを受け、少しでも力になればと4人で力を合わせて作業をしました。汗びっしょりになりましたが、この秋いい椎茸が沢山発生してくれば良いなと思います。

原理先生は、私たちにも気さくでも優しくお話ししてくださいました。「北総です」といって、とても嬉しそうでした。それも武井園長が原理先生を慕われ絆を築いてきたからだと思います。原理先生にお会いできたことは、本当によかったです。

そして、8月9日という日に長崎にいたこともとても意味ある一日になったと思います。長崎市の平和公園に北総育成園の皆で折った千羽鶴を届けました。平和公園に来ている方を見ると、若い夫婦が小さい子供を連れていたり、男子高校生が友達同士で来ていたり、若い女性が一人で来ていたり

8月9日 長崎に原爆が投下された日。皆で作った千羽鶴を届けた。



外国の方の姿もありました。長崎の人にとって8月9日は、戦後を過ごした高齢の方だけではなく、しっかりと下の世代にも受け継がれていて、戦争、平和、原子爆弾などに対する思いはとても大きいものだと感じました。

今回の研修は、改めて北総が大切になっているものとは何か、私たちはどのようにして利用者を大切にしていくのか、私自身が出来ることは何かと自分の仕事を学ぶ大きな機会になりました。色々と勉強させて頂きましてありがとうございます。

北総の里から考えること

北総育成園

副園長 白樫久子

北総に暮らすこの人達と私達職員は、同じ釜の飯を食べ、仕事に汗を流している。開所して四十三年、利用者さんの6割は50歳以上になった。私も然り。親御さんも高齢になり、帰る家のない利用者も増えた。昔、大晦日から正月三が日は皆自宅に帰り、職員は無人の園玄関の鍵をかけて勤務を終えた。今は、正月もお盆も40名以上在園し、年越しそばもおせちも園で作りました。

昭和40年代日本は高度経済成長期、障害を持つ子の親の活動は全国に広がり「この子達の幸せ」を必死に願ひ、入所施設が次々と建設された。北総もその大河の一滴。船橋から80キロ離れた東庄の地に根付いた。地域の皆様に支えられ、地域の一員として私達を育てて頂いた。

桜舞う4月は、笹川諏訪神社の春の

祭礼。無形文化財の神楽に胸躍らせ、出店のリンゴ飴を頬張る。東庄は人口1万2千人の小さな田舎町。いつしか雑貨屋さんや床屋さん、布団屋さんのおばちゃんおじちゃんと顔なじみとなり、「やあやあ」と挨拶を交わすことが、この町で生きてきたうれしい証。7月の祭りは、根方区の皆さんが揃いの半纏を着て、賑やかなお囃子とともに山車を引いて夏の夕暮れ、下座踊りに互いの笑顔があふれる。収穫の秋は皆仕事に忙しい。農耕班や園芸班、林産班等の作業、環境整備などでも多くのボランティアさんが来てくれる。船橋からも多くの方々が北総の為に、毎年駆けつけてくれる。「元気だったね」と親しく声をかけて頂く。冬ライオンズクラブや楽友会の皆さんに招待されてのクリスマス会も30年以上の、心温まるお付き合い。この人達は、地域の多くの人々と触れ合う中でこの地で暮らしてきた。

し、職員と利用者の数は1対1ではない。夜間・休日は職員数が少なくなる。一瞬の隙をみて出ていく人もいる。勿論、防災計画・緊急時マニュアルなども整備され、安全対策は常に見直しをしている。避難訓練・防災点検も月に一回実施。しかし安全管理の為に言って、今より高い塀を巡らせたり門を閉ざしてしまえば、今まで培ってきた大切なものを失ってしまう。職員が腰にじゃらじゃら鍵をつけていることが当たり前の生活ではない。職員の心までに鍵をかけてしまう。その姿に利用者もいつしか心と暮らしに鍵をかけられてしまう。

大人同士の暮らしの中では、時々嫌になることもある。とぼとぼ一人で歩いて外に出かけ、地域の人からご連絡を頂いて無事保護されることもある。認知症や強度行動障害の為に常時職員がそばにいて支援する方もいる。しかし

相模原事件を受けて、行政から文書で「防犯に係る安全管理の徹底」を通知された。より安全な暮らしを守る義務が我々にはある。日々良い緊張感を持って、この人達に寄り添っていくことが我々の仕事であり、誇りである。しかしそれは、防犯カメラや厚く固い扉、そして文書や法律だけでは決して守ることは出来ない。北総が開所した昭和の時代とそれほど変わらないであろう、この豊かな緑の里。今日もそれぞれの部屋には、野菊やあざみ、「一期一会一輪の花」が風に揺れている。この人達の笑顔がその隣にある。この人達の暮らしがここに

ある。

28・夏 かなな工房・野の花

支援課長・興梠 孝

今年の夏も暑かった！毎日、たくさん汗を流して仕事をしてきたかなな工房の仲間たち。その仲間たちが最も楽しみにしてくれている夏の行事が「ビアガーデン」。8月6日（土）この日も朝から晴天に恵まれた。午前中の準備からクラクラする暑さの中で皆さん準備をした。

そして、待ちに待った時。テント下のテーブルは沢山の料理と飲み物で賑わった。各班の代表が4月からの作業を振り返っての挨拶。利用者代表のKさんの元気な乾杯の音頭。日頃仕事を共に



頑張ってきた仲間が飲んで食べて、ゲームを楽しい時間があったという間に過ぎて行った。まだまだ、暑い日が続く中で秋のイベント販売に向けて英気を養う事が出来た行事だった。

次に、GH野の花は、昨年9月1日にスタートしてから1年が過ぎた。この間、地域の皆様、

北総育成園、かなな工房の皆様を支えられてきた。開所時3名でスタートしたホームですが4人目の入居者も入り、すっかり慣れて楽しく生活を送っている。世話人さんも利用者の事を思い生活をしている。その中で、日頃の利用者の様子やホームの運営等話し合う機会として

「世話人会議」を月に1度開催してきた。そこでは利用者の情報共有や日頃世話人さんが考えている事等を率直に出し合い、

運営が出来るように取り組んできました。今後も世話人会議の継続、利用者の日々の暮らしを支える大切な機会として運営していきたいと思う。まだまだ、2年目のホームですが、改めて初心に戻り頑張っていきたい。今後とも宜しくお願い致します。



今年の7月26日未明に起きた凄惨な事件。亡くなられた方にお悔やみを申しあげると共にケガを負われた方々には心からお見舞い申しあげます。我々も津久井やまゆり園の事件を受けて改めて笹川かなな工房、野の花のセキュリティを見直す機会となった。笹川かなな工房は、日中活動として施設

がお店として展開しており一般のお客様も多く来られる所だ。工房本体と裏作業場と分かれた上にオープンな出入りが出来る性質を持っている。安全システムとして「セコム」に入っており夜間職員が不在の時間は民間警備会社をお願いしている。野の花は警備会社をお願いすることはしていないが、近隣の方々が日頃から気にしてくださっている。「雨が降ったら洗濯物入れとくよ」等気さくに話しかけてくれ、世話人さんも利用者も挨拶を欠かさない。この「挨拶」こそが地域で生活する上で何より大切な事であり、いざという時に助けてくれると思う。だから、かなな工房、野の花の世話人利用者は地域の方に可愛がってもらえるように日頃からの交流を大切にしている。今後も地域との交流を密にしながら安全で安心して仕事が出来、生活が出来るように取り組んでいく。やまゆり園の事件は我々の仕事の根底を揺るがす許す事が出来ない事件。我々は今一度自分の仕事を見直し謙虚にこの人達と向き合っていきたい。

ランプの発

魔法のランプ管理者 山田朝広



こんにちは。いつもご拝読頂きまして、誠にありがとうございます。

さて、今回は「おーぶん」全体が7月26日に起こりました「津久井やまゆり園」での凄惨な事件のことについての特集とのことでしたので、元施設職員としての立場、そして、現在ご利用者様の地域生活を支援する立場からお話をさせて頂ければと存じます。最初に言っておきますがもしかしたら私個人の偏った意見になるかも知れません。その点はご了承下さい。

この度このような凄惨な事件が起こり、まずは犠牲となった方々には「ご冥福をお祈りいたしますと共に、ご家族の方々には謹んでお悔み申し上げます。また、怪我をされ治療に当たられている方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

私はこの度の事件のことをたまたま事件当日26日早朝に何気なく目を覚まし、ふとテレビを付ける時、この事件のことを報道しており知りま

した。半分寝ぼけていて、再度眠りにつき、目を覚ますと、どのチャンネルもその報道一色になっていて、その時に異様な感じを受けたことを覚えていました。

その後はニュースを見ているといろいろと情報が入ってきて、非常に悔しい思いと悲しい思いが交錯しておりました。

突き詰めていくと、事件を起こした者の考えが…というような発想になっていくので、私は考えません。私はどうしても人の命を奪ったということが許せません。しかも優生思想という考え方の下というような意見もあります。まずはこの男の行為そのものがどうしても許せません。

これまた、施設で職員として働いていながら、なぜそのような考えだったのか、疑問を感じる「ユ」です。元々そのような思想があったのかも知れませんが、なぜ施設で働いていたのでしょうか？この男が障がい者に

対して否定的なことを言っており、しかも働いていたにも拘らずご本人一人ひとりの障がい特性を理解しようとしなかったのでしょうか？また外部研修などに行き、障がいについての理解を深めなかったのでしょうか？いろいろな疑問が残ります。

次に、地域生活を支援する者の立場として言わせて頂きます。先日9月初めに当事業所でヘルパー会議を実施しました。スタッフからの熱望があり、急ぎよ今回はこの事件のことを取り上げ、スタッフ及びヘルパーさんで話をしたいとのことで「私たちのこれから」というテーマで話し合いを致しました。

グループワーク形式で行なったのですが、ヘルパーお一人おひとりがこの事件のことをとても疑問視しており、「信じられない」「なぜ」という大半がこのような意見でした。やはり世の中にはいろいろな考えを持つ

人がいるのは当然であり、我々にできることはそのような考えを持つ人たちにまずは現状を知って頂き、楽しく暮らしているということをおアピールして行かなければならないと感じました。

その中で自分たちが外出支援を行っている時に差別感を感じたことがありますかという質問に対しては、「電車の中などで席を移動される」というような意見が挙がり、ショックだったのは悲観的に思われたり、「何でこのような仕事をしているの」と聞かれたりするということがありました。私自身がこの仕事に就いたのが学生ボランティアをした時に皆さんと接する中で、皆さんの純粋さ、ますますな気持ちを表現するのを見て素晴らしいと思ひ、そのお手伝いをしたいという思いから仕事を始めたのを思い出しました。また身内からも何も言われたことが無かったので、今回「何でこのような仕事をしているの」という話を聞いてハッとする出来事でした。全く福祉と無関係だった人はこのような意見を持たれるのだと感じ、ますますアピールしなければと思いました。

次に「ヘルパーを続けようと思うのは？」という問いでは、仕事をし
ていて楽しいという意見、ご本人が
したいと思う事や好きなことに付き
添えるといった意見が挙がりました。

会議の最後に当事業所が掲げている「地域との懸け橋になろう」ということで、私たちに出来ることとしてお尋ねしましたら、非常に前向きな意見が挙がりました。それが殆どの方がまず障がいというものを世間に知って頂かなければならないのでは？その為にはこの仕事（外出支援）を通して街に出て、私たちと一緒にアピールしていく必要があるのではないかとまとめました。その中でも障がいのある人もいるという当たり前の環境を作っていくことが私たちに出来ることなのではないかという意見が挙がりました。

最初自身は、この話し合いに対してとても消極的だったのですが、今回ヘルパー会議でこのテーマで話をしてスタッフ及びヘルパーさんのお気持ちを確認できたことは良かったと思っております。また皆さんが前を向いてお仕事をさせて頂いている

のを知り、やって良かったと、とても気持ちが晴れやかにになりました。このテーマでやりたいと言ってくれたスタッフに感謝いたします。またこの話し合いに参加してくれたヘルパーさんにも感謝いたします。

最後にご本人様始め、ご家族の皆様へ、当事業所のスタッフ及びヘルパーはご本人様のことを理解しようとしていきます。地域・世間との懸け橋となる様に我々が外出支援を通じてご本人様たちのことを知って頂くように環境を作っていきます。是非『室内』で過ごすという発想ではなく、我々を利用して頂き、もっと外出し世間にアピールしていきましょう。そして全国育成会の声明文にもあったように「堂々と生きていきますよ」。我々が必ずサポートしていきます。今回のことで、室内で過ごすことなく、どんどんと外出支援のサービスを利用して頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



□編者の一燈隅照

介護離職ゼロを目指す？

安倍晋三首相は、「介護離職ゼロ」を目指すといいながら介護保険サービスの縮小を検討していると、特別養護老人ホームを運営する友人は懸念している。

また、柏市に住む認知症の人と家族を支えるサポート活動をする知人からも同様なメールをもらった。なんでも、①一定以上の所得者の利用負担を2割に引き上げる。②介護施設に入所する低所得者への補助を縮小するなど

の見直しを来春から実施するという。介護保険の見直しは、歳出削減につながり、介護離職者を増やすもので、一億総活躍社会を創出することと逆行ではないか、と怒りに満ちている。

昨年「保育園落ちた……」のブログが大いに話題となり全国にブログママが名乗りをあげた。今度は、「介護の質低下、どうする介護離職」とブログで訴えようかと

知人は嘆く。私の母がサービスタクサーで生活し、年金の範囲内で暮らしているので助かっているが、年に2-3回は母のもとに行くが、飛行機とレンタカー、ホテル代と面会に行く費用はかさむ。ただ私のことや孫の顔を忘れず、今度いつ来るの？のことは胸が痛む。帰り際「かあさん、○○ころ来るから元気でね」と返すと、母の眼に涙。

介護保険の見直しは、その影響もすっかりと見定め、歳出削減ばかりではなく、要介護1・2の軽度者が利用するサービスの質の低下などを把握してほしい。一人暮らしや老介護でやっと自宅まで過している皆さんへの影響が心配される。

安倍首相は、介護離職の実態をどのように考えておられるのか。さらにいうならば、老障介護のことも一億総活躍社会とアドバルーンを上げることに着目するのではなく、わずかな年金で暮らす人々に身近に接し、辛苦を共にする共生社会を実現してほしいと私は思う。威勢のいい言葉に惑わされず、共に歩む姿勢で障害のある人もない人も暮らしやすい世の中にしたいものです。

さざんか会後援会だより

「相模原事件に思う」

さざんか会後援会…会長 藤澤 新作



知的障害者は本当に「生きていてもしょうがない」のだろうか。

この問題は、私達に人としての在り方に根本的な問いを発しているものと思わざるを得ません。何となれば、根底に差別という気持ち根深く横たわっていると思うからです。

相模原の事件には、私達はいろいろなことを考えさせられました。そのうちの二つ

は、自分勝手な思い込みと行動から私達が抱えている危うさを改めて感じないわけにはいきません。これは、誰しもが持っている、人が人故にもっている自我の強さ、恐ろしさを省みるとを教えてください。

ひるがえってみて知的障害者（彼ら）はどうでしょうか。私は、彼らのもっているもったも素晴らしい面に光を当ててみたいと思います。彼らは「生きていてもしょうがない」ところか、私達の師であると思っております。何となれば、克服すること

が非常に難しい自我が少ない、

思い込みも少なく、他人を何とかしてやろうなどということがもっとも少ないからであります。人間ですから煩惱のない、欲のない人はいません。しかし、彼らには必要以上の欲がないのです。恥ずかしながら私は欲の固まりといっています。

人間は誰もがエゴという眼鏡をかけています。この眼鏡の焦点に合うものだけは自分に好ましく思えます。そうでないものは好ましくないと判断します。自分の眼で見たから間違いはない、この耳で聞いたから確かだ

と主張します。これがエスカレートすると自分の言うことや信ずることが正しく他はすべて間違っていることになりません。心のカメラを自由に操作できない私達こそ障害者ではないでしょうか。

ところが彼らは何にもとらわれないう心をもっています。だからむしろ私達の師であるといえるのです。これをそう思えないのは、自分の眼が曇って暗いからです。自分の物差しが狂っているからかもしれません。

私達は、彼らの身近にいますからその良さを理解できます。そうでない人にはなかなか難しいかもしれません。これらの理解を深めることができます。重要になってきます。残念ながら現在は、理解をする機会がいかに少ないと思います。

彼らをありのままに理解するには、素直な子ども頃から接する機会や環境をつくっていくことが必要なのではないでしょうか。



親から親への伝えあい

ひとりで悩まないで！！

(福) さざんか会後援会主催

講演会のご案内

日時：平成28年11月10日(木)

11:00~12:30

会場：さざんかキッズ

1階フレイルーム

船橋市行田 2-8-1



講師：臨床心理士 横内郁子先生

(福) 青葉会相談室・発達障害支援室シャル

テーマ：「わが子を上手に支える」

※会場には駐車場がありませんので公共交通機関をご利用願います。

■問い合わせ先 のまる：電話 047-456-7361 泉 まで

■申し込み：FAXで 047-456-7371 のまる へ (参加費無料)

お申し込みは氏名、連絡先等を明記し、10月31日までにFAXかメールでお申込みください。

メールの場合は：izumi@e-sazankakai.or.jp へ。